



「人生の喜び」像 2020.2.21撮影
長崎平和公園内（高等部修学旅行にて）

大塚の未来に向かって

筑波大学附属大塚特別支援学校がこのたび60周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

昭和63年2月、当時学生の私は、初めて附属大塚の校門をくぐり研究協議会に参加しました。会議室で行われた高等部の分科会では、窓際の椅子に腰掛け、必死に協議の内容を理解しようとしていたことを今でも覚えています。千葉県での教員経験を経た平成11年4月、今度は教員として着任し、令和2年3月、21年間お世話になった大塚を退職いたしました。

この間、大塚では「温故知新」の学びを深めることができました。附属小学校補助学級から100年以上も続く伝統ある教育と実践研究にふれると同時に、本学と連携した最新の知見に基づく研究を行うことで、知的障害教育の教育課程や指導法を追究することができました。たくさんの同僚と交わした議論の数々、子どもたちの声、保護者の方々からのお言葉の一つ一つが貴重な財産となっています。

先達の功績に学び、コツコツと積み上げてきた大塚での実践とその経験が、教師としての自分を成長させてくれたことに感謝しています。

子どもたちと過ごした日々、ともに学んだ校舎、窓から見える景色、感じる風や音のすべてが一生忘れることのできない大切な思い出です。

大塚の在校生と卒業生が、人とのつながりのなかで主体的に社会に参加し、自分らしい生き方を目指すことができるよう、これからも応援しています。

最後に、筑波大学附属大塚特別支援学校が未来に向かって発展し続け、インクルーシブ教育の推進と知的障害教育を先導していくことを切に願っています。

（帝京大学教育学部初等教育学科 中村 晋）